

# 道徳の時間の7つの基本方針（小学校）

## 「小学校学習指導要領解説・道徳編」より

解説書

第5章 道徳の時間の指導

第1節 指導の基本方針

※（「小学校学習指導要領解説・道徳編」P.79～80）

### ■ 道徳の時間の目標 ■

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする。

道徳の時間においては、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、年間指導計画に基づき、児童や学級の態に即して、人間味のある適切な指導を展開しなければならない。そのためには、下に述べるような指導の基本方針を確認する必要がある。

#### (1) 道徳の時間の特質を理解する

道徳の時間は、児童一人一人が、一定の道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを発達段階に即して深め、内面的資質としての道徳的実践力を主体的に身に付けていく時である。このことを共通に理解して授業を工夫する。

#### (2) 信頼関係や温かい人間関係を基盤におく

道徳の時間の指導は、学級での温かい人間関係が基盤にあつてこそ効果を発揮する教師と児童の信頼関係や児童相互の人間関係を育て、一人一人が自分の感じ方や考え方を伸び伸びと表現することができる雰囲気や日常の学級経営の中でつくるようになる。また、それを生かした授業をすることによって、人間関係を一層育てていくよにすることが大切である。

#### (3) 児童が自己への問い掛けを深め、未来に夢や希望をもてるようにする

授業の全体において、資料とのかかわりや教師と児童及び児童相互のかかわりなを通して、児童自らが自分自身への問い掛けを深めていくことによって、自らの成を実感することができ、自己や社会の未来に夢や希望をもち、意欲的に生きていくための力を身に付けていくことができるようにする。

#### (4) 児童の発達や個に応じた指導を工夫する

児童には、年齢相応の発達の課題があるとともに、個人差も大きいことに留意し一人一人の感じ方や考え方を大切に授業を工夫する。そして、児童が自分の生や自己の生き方を主体的に考えられるようにする。

#### (5) 道徳の時間が道徳的価値の自覚を深める<sup>かなめ</sup>要となるよう工夫する

学校の教育活動全体で行う道徳教育の要として、それらを補充、深化、統合す役割を果たす道徳の時間の特質を踏まえ、ねらいに含まれる道徳的価値の側面からの教育活動との関連を把握し、それを生かした授業を工夫する。

また、内面に根ざした道徳的実践力が効果的に育成されるよう、児童の日常的な験はもちろんのこと、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の関施設等との交流活動など、多様な体験活動を生かした授業を工夫し、道徳的価値のつ意味や大切さについて深く考えられるようにする。

#### (6) 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する

道徳の時間の指導を計画的に推進し、また、それぞれの授業を魅力的なものとし効果を上げるためには、学校の全教師が協力しながら取組を進めていくことが大切である。校長の方針を明確にし、道徳教育推進教師を中心に指導体制の充実を図るとともに、道徳の時間への校長や教頭などの参加、他の教師との協力的指導、保護者や域の人々の参加や協力などが得られるように工夫する。

#### (7) 児童と共に考え、悩み、感動を共有し、学び合うという姿勢をもつ

道徳は、児童のみではなく、教師自身の課題でもある。児童に教え込もうとするのではなく、教師自らが児童と共に考え、悩み、感動を共有しながら、学んでいくという姿勢で授業に臨むことが大切である。また、学級での日常生活においても教師の徳的な在り方が求められる。

# 道徳の時間の7つの基本方針（中学校）

## 「中学校学習指導要領解説・道徳編」より

### 解説書 第5章 道徳の時間の指導 第1節 指導の基本方針

※（「中学校学習指導要領解説・道徳編」P.82～84より。以下は、一部ダイジェストしている。

#### ■ 道徳の時間の目標 ■

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

#### (1) 道徳の時間の特質を理解する

道徳の時間は、生徒一人一人が、一定の道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、道徳的価値を発達段階に即して内面的に自覚し、それに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、主体的に道徳的実践力を身に付けていく時間であることを理解する必要がある。

#### (2) 信頼関係や温かい人間関係を基盤に置く

道徳の時間の指導は、よりよい生き方について生徒が互いに語り合うなど学級での温かな心の交流があつて効果を発揮する。

教師と生徒との信頼関係や生徒相互の温かい人間関係は、生徒一人一人が自分の感じ方や考え方を伸び伸びと表現することができる雰囲気や日常の学級経営の中で創り出すことによって豊かにはぐくまれていく。また、道徳の時間における教師と生徒及び生徒同士の心の交流は学級の人間関係をより一層確かなものにしていく。（後略）

#### (3) 生徒の内面的な自覚を促す指導方法を工夫する

道徳の時間の指導の目指すものは、個々の道徳的行為や日常生活の問題処理に終わるものではなく、生徒自らが時と場に応じて望ましい道徳的な行動がとれるような内面的資質を高めることにある。（中略）したがって、生徒が道徳的価値を内面的に自覚できるよう指導方法の工夫に努めなければならない。

#### (4) 生徒の発達や個に応じた指導方法を工夫する

生徒の発達は年齢によってほぼ共通した特徴を示すこと、年齢相応の発達の課題があることなどを十分把握して指導に当たる必要がある。

しかし同時に、生徒の発達には個人差が著しいことや、日々の生活において個々の生徒が様々な課題を抱えていることを踏まえて、生徒一人一人や学級、学年の傾向をよく把握し、適切な指導を工夫する必要がある。（後略）

#### (5) 道徳の時間が道徳的価値の自覚を深める<sup>かなめ</sup>要となるよう工夫する

ア 体験活動を生かすなど多様な指導方法の工夫をする

豊かな体験は、生徒の内面に根ざした道徳性の育成に資するものである。これらの体験活動を通して生徒が気付く様々な道徳的価値は、それらがもつ意味や大切さなどについて深く考える道徳の時間の指導を通して、より確かな道徳的実践力として定着する。（後略）

イ 他の教育活動との関連を図る工夫

各教科、総合的な学習の時間及び特別活動等における道徳教育を補充、深化、統合し、<sup>かなめ</sup>要としての役割を果たす道徳の時間の特質を踏まえ、ねらいに含まれる道徳的価値の側面から他の教育活動との関連を把握し、事前の指導や事後の指導などを工夫する。

#### (6) 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する

道徳の時間の指導を計画的に推進し、また、それぞれの授業を魅力的なものとして効果を上げるためには、学校の全教師が協力しながら取組を進めていくことが大切である。校長の方針を明確にし、道徳教育推進教師を中心に指導体制の充実を図るとともに、道徳の時間への校長や教頭などの参加、他の教師との協力的指導、保護者や地域の人々の参加や協力などが得られるように工夫する。

#### (7) 指導に当たっての基本的姿勢について理解を深め指導に当たる

道徳の時間の指導を展開するに当たっては、全教師が学校の道徳の時間の基本方針を十分に踏まえ、どのような生徒を育てようとするのか、そのために道徳の時間はどのような役割を果たすのか、また、どのような指導をしようとするのかということについて、共通に理解していることが必要である。また、教師は自らの個性を十分に生かして指導に当たることが望ましい。教師の人間味ある指導のもとでこそ、生徒が充実感をもって話し合い、考えるような指導が展開できるからである。その際、教師は生徒と共に考え、悩み、感動を共有していくという姿勢で授業に臨み、生徒が自ら課題に取り組み、考え、道徳的実践力を養うことができるように配慮することが必要である。